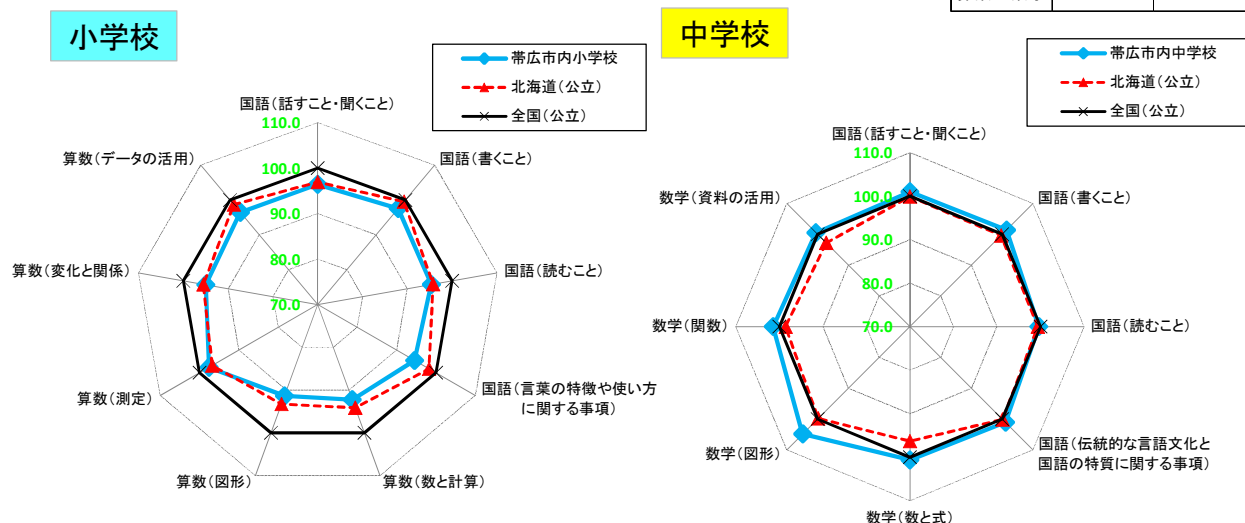


■帯広市内の状況及び学力向上策（小学校数:26校、児童数:1228人）（中学校数:14校、生徒数:1174人）

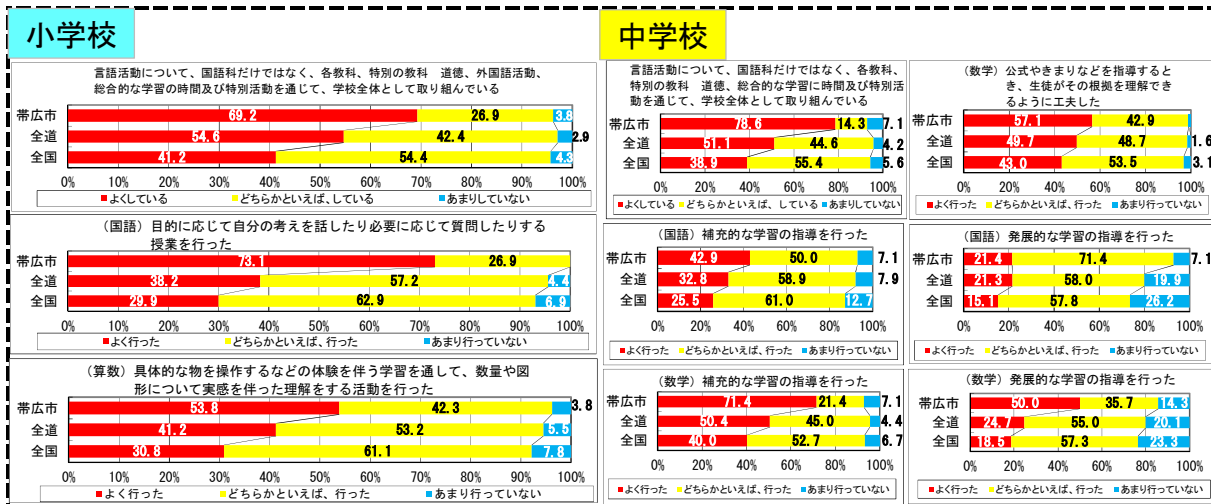
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	65
算数・数学	66	58



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回った設問があったと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする授業を行ったことにより、「測定」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、補充的な学習や発展的な学習を行ったことにより、読むことの領域以外で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫した授業を行うとともに、補充的な学習や発展的な学習を行ったことにより、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【帯広市の学力向上策】

- ◎ 帯広市学力向上推進プロジェクトチームによる各種調査結果等の分析及び授業改善通信の発行
- ◎ 中学校区を基本とした「エリア・ファミリー」における相互参観や合同研修会等の実施
- ◎ 長期休業研修を実施し、教職員の資質能力の向上と授業改善を推進
- ◎ 教職員を対象とした1人1台端末の活用に係る研修講座を複数回実施

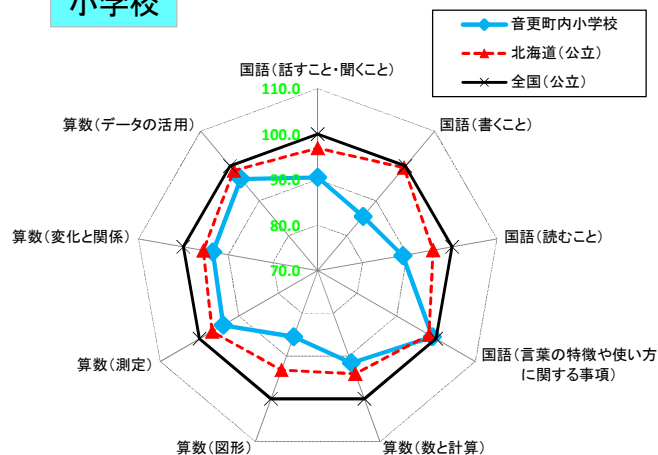
■音更町内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:412人）（中学校数:5校、生徒数:424人）

【教科全体の状況】

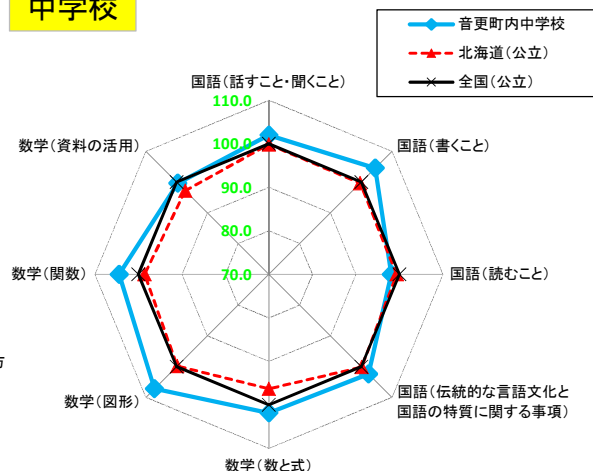
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	66
算数・数学	65	59

小学校

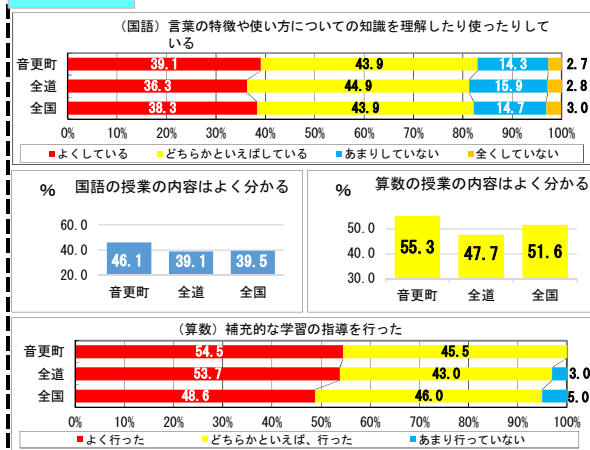


中学校

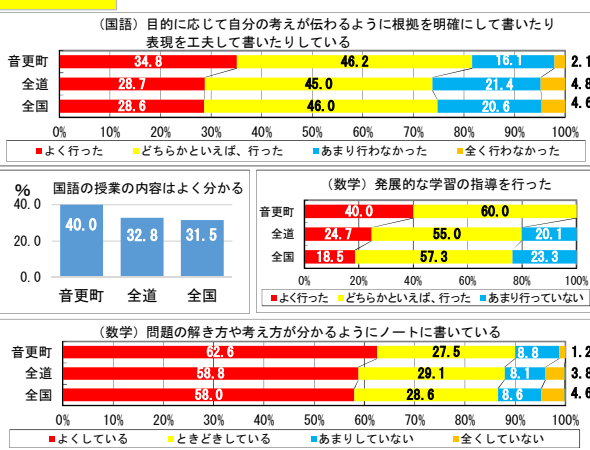


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行ったことにより、言葉の特徴や使い方に関する事項で全道の平均正答率を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

算数の授業において、ICT機器を効果的に活用するとともに、補充的な学習の指導を行ったことにより、算数の授業の内容はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする指導を行ったことにより、2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行うとともに、発展的な指導を行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

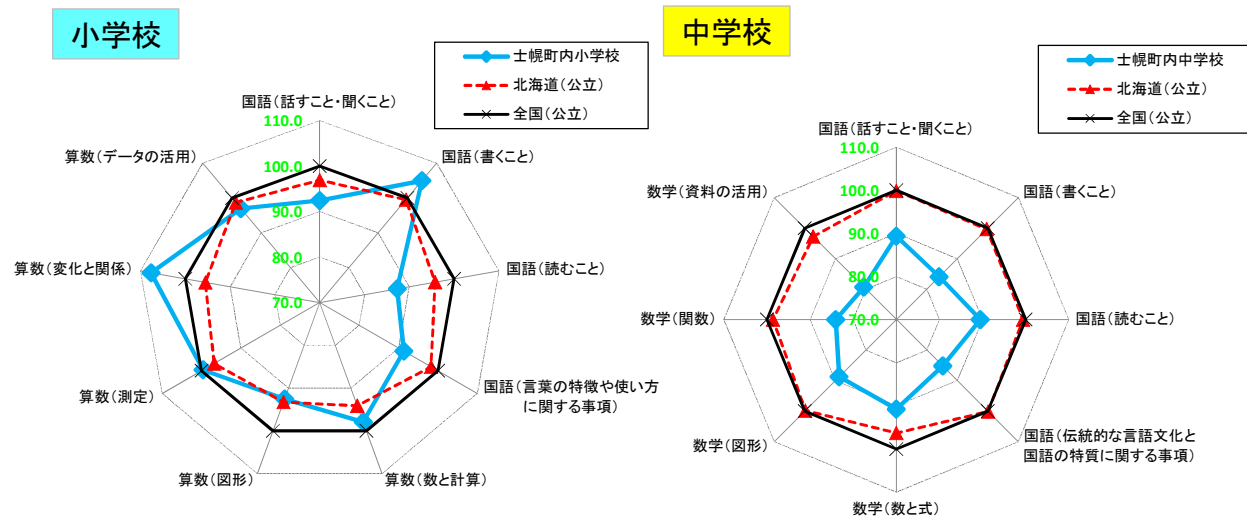
【音更町の学力向上策】

- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 授業におけるICT機器の効果的な活用
- ◎ 家庭学習の定着に向けた「家庭学習の手引き」及び「家庭学習のすすめ」の見直し及び日常の授業との連動

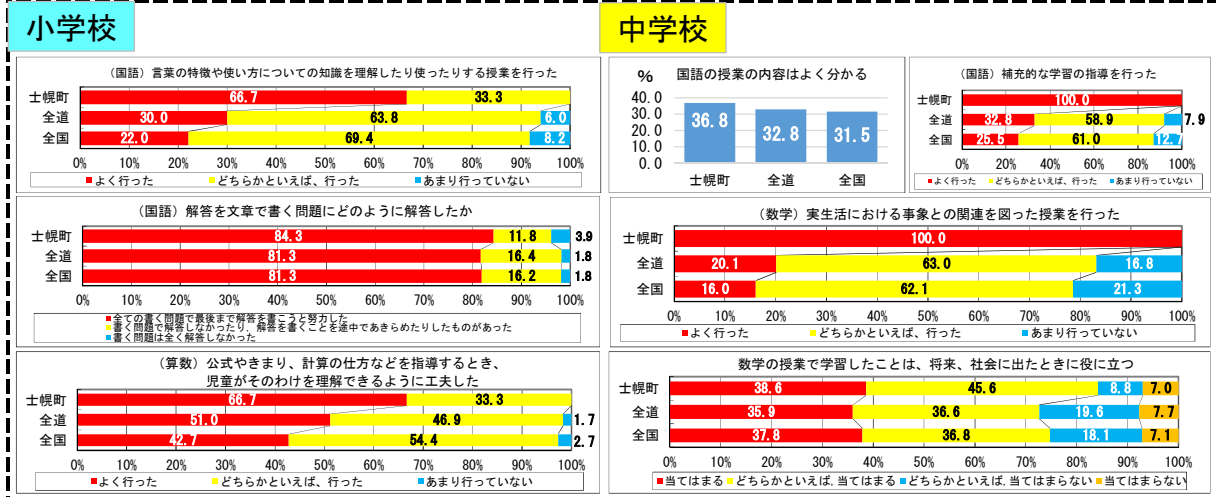
■士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:51人）（中学校数:1校、生徒数:57人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行うとともに、書く問題で最後まで解答を書くよう努力するよう指導を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫した授業を行ったことにより、「変化と関係」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、補充的な学習の指導を行ったことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

【士幌町の学力向上策】

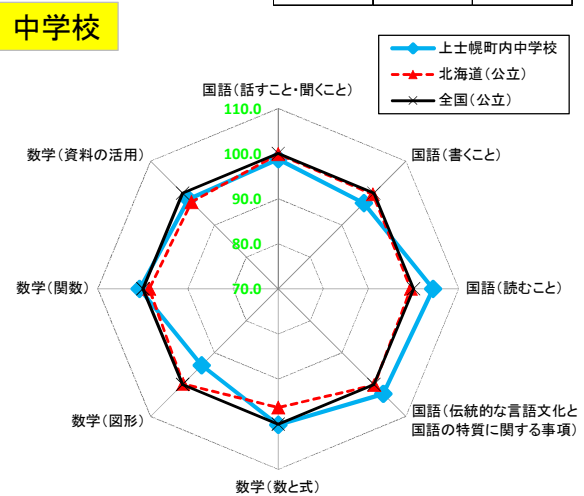
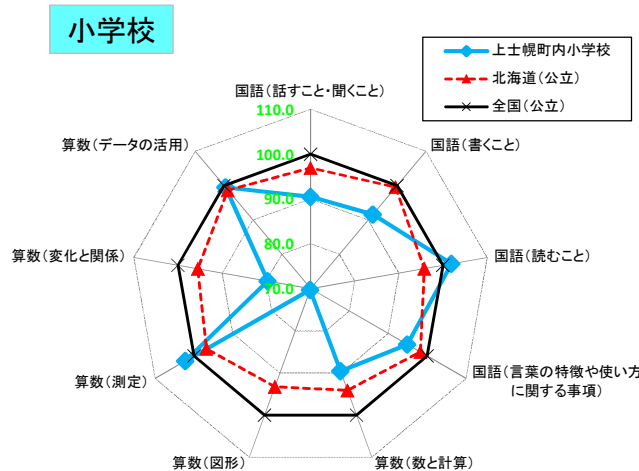
- ◎ 学級ごとの検証ではなく、分析結果及び成果を学校課題として全教職員で共有できる検証改善サイクルの確立
- ◎ 小学校での教科担任制や乗り入れ授業の実施による小・中学校合同による授業改善研修会や授業参観の実施
- ◎ 「家庭学習の手引き」を活用した家庭と連携を図った学習習慣の確立
- ◎ 個別最適な学びの実現に向けた個々の学力差に対応した1人1台端末の活用

■上士幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:44人）

【教科全体の状況】

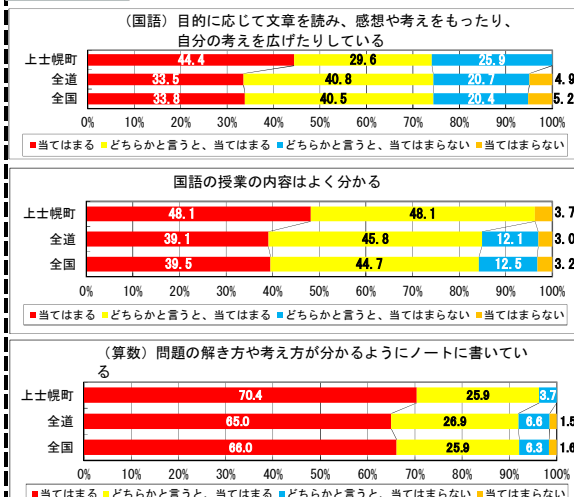
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	65
算数・数学	63	56

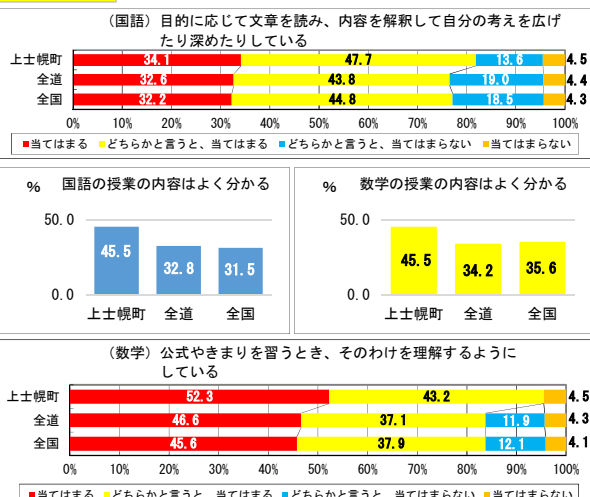


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする指導を行ったことにより、「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「測定」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、データの活用の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする指導を行ったことにより、「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、「数と式」及び「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

【上士幌町の学力向上策】

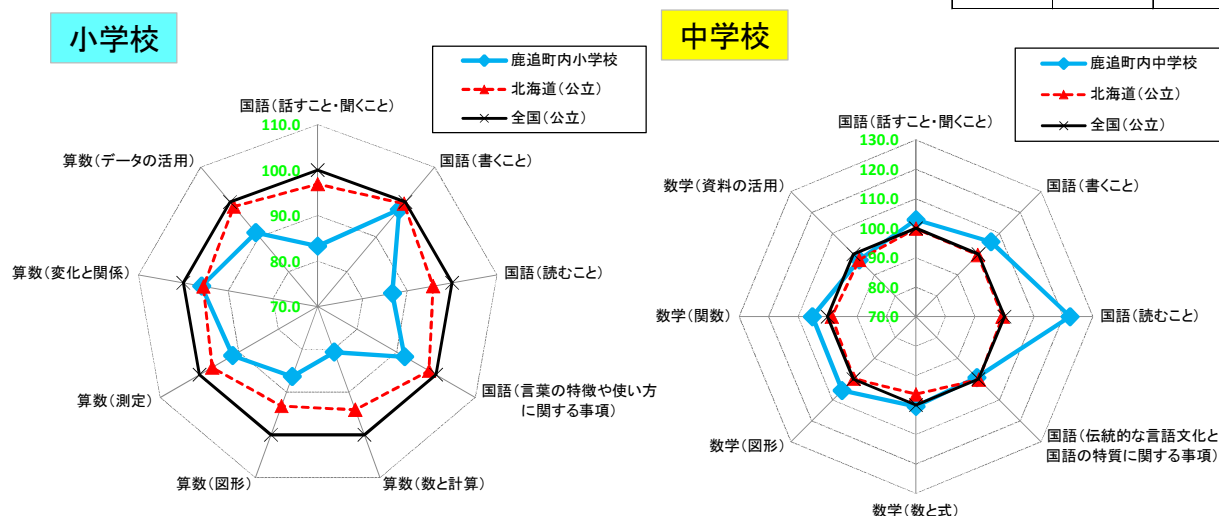
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善及び教科等における言語活動の充実
- ◎ 情報活用能力を高めること及び学びを深めるためのICT端末の利活用
- ◎ こども園から小・中学校までの一貫した教育の推進
- ◎ 授業と家庭学習の連携についてのマネジメントと個に応じたきめ細かな指導

■鹿追町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:53人）（中学校数:2校、生徒数:54人）

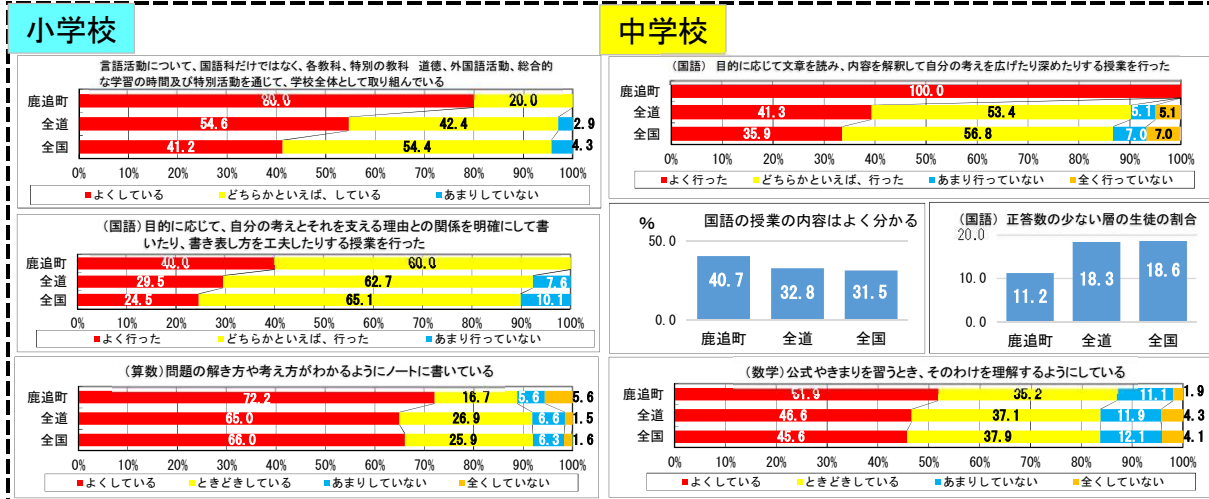
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	69
算数・数学	63	58



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回る設問があったと考えられる。 算数の授業において、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書く指導を行ったことにより、「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、正答数の少ない層の生徒の割合が全国及び全道の割合を下回ったと考えられる。 数学の授業において、ICT機器を効果的に活用するとともに、数学の公式やきまりを習うとき、そのわけを理解できるように工夫した指導を行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【鹿追町の学力向上策】

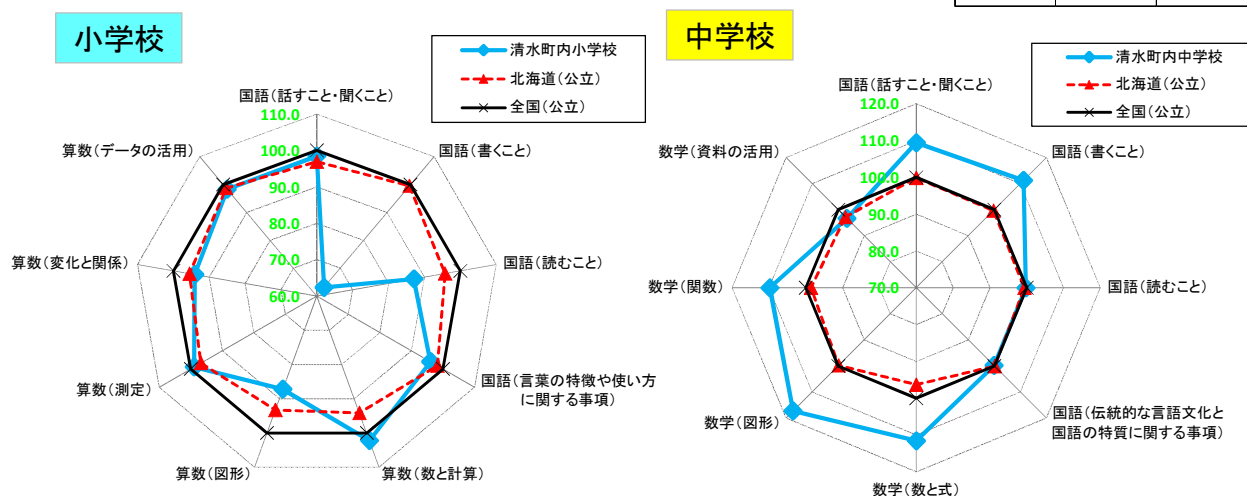
- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 小学校算数科における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、日常の授業と家庭学習との連動
- ◎ 1人1台端末と学習アプリを活用した基礎・基本の定着
- ◎ 小・中・高等学校の系統性のある外国語教育の推進

■清水町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:64人）（中学校数:2校、生徒数:63人）

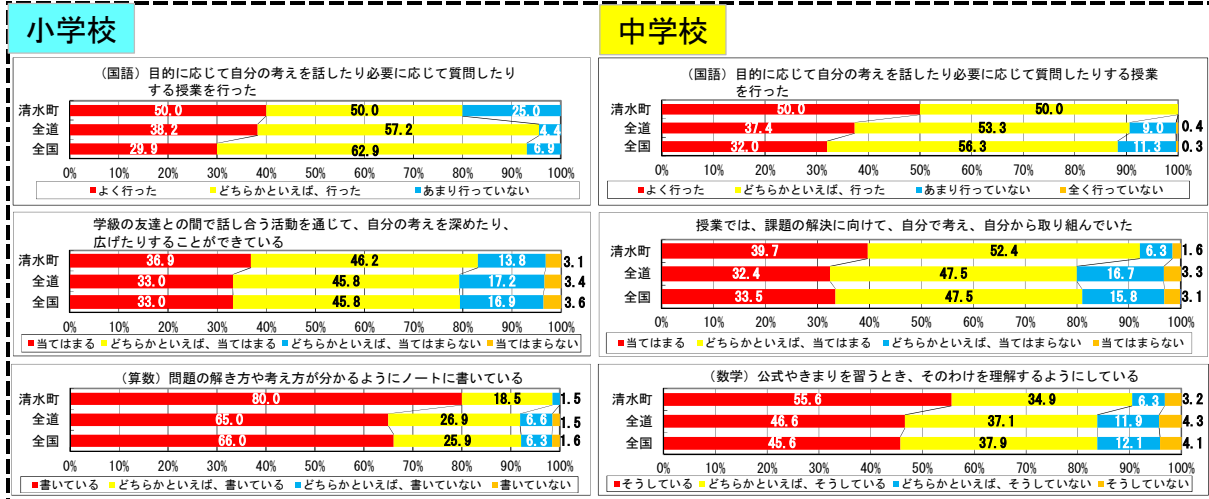
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	68
算数・数学	67	62



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行うとともに、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする指導を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「数と計算」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行うとともに、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む指導を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、チャレンジテストの活用や補充学習等を積極的に行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【清水町の学力向上策】

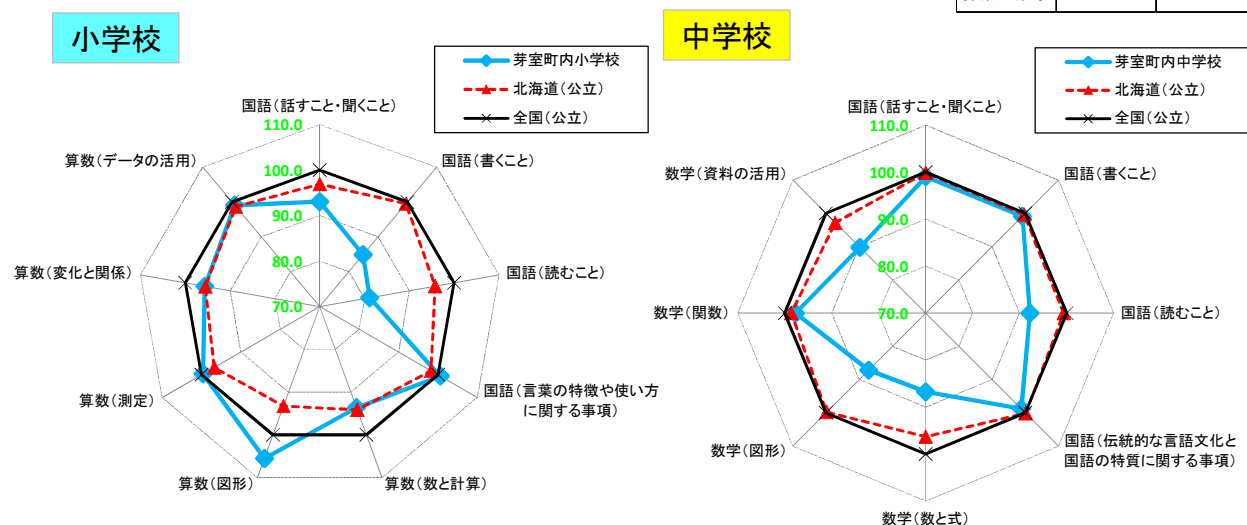
- ◎ 全国学力・学習状況調査及び標準学力検査等の調査結果の分析、検証に基づく学習指導の改善
- ◎ チャレンジテストの活用や補充学習等による基礎学力の定着
- ◎ 学習習慣の定着に向けた「家庭学習の手引」及び「家庭学習のすすめ」の全家庭への配付と活用
- ◎ 地域人材を活用した学習支援の充実

■芽室町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:162人）（中学校数:3校、生徒数:192人）

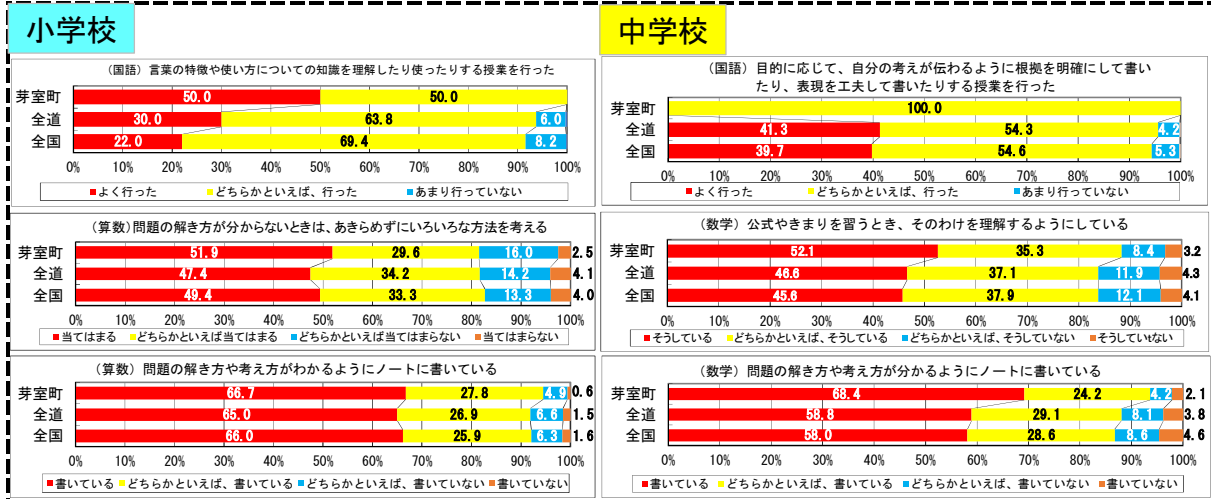
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	63
算数・数学	69	51



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える指導を行うとともに、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書く指導を行ったことにより、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行ったことにより、「書くこと」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書く指導を行ったことにより、「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回る設問があったと考えられる。

【芽室町の学力向上策】

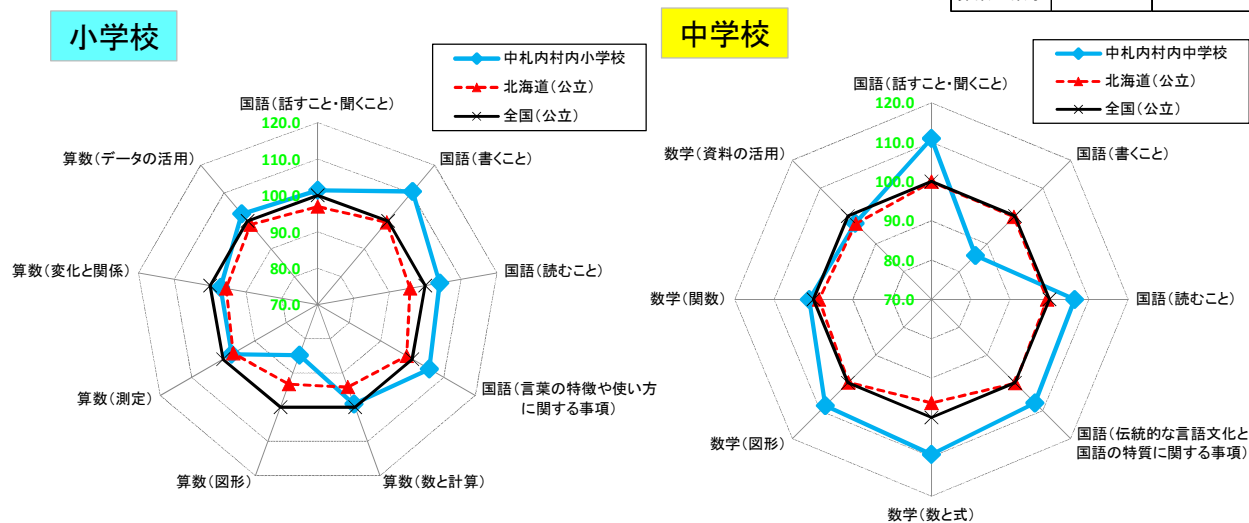
- ◎ 授業改善推進チーム活用事業による小学校の授業改善の推進
- ◎ 中1ギャップ問題未然防止事業による学習・生活両面における小中連携の推進
- ◎ AIドリルを活用した基礎・基本の定着
- ◎ 教育活動助手や学校支援員による、支援体制の充実

■中札内村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:38人）（中学校数:1校、生徒数:32人）

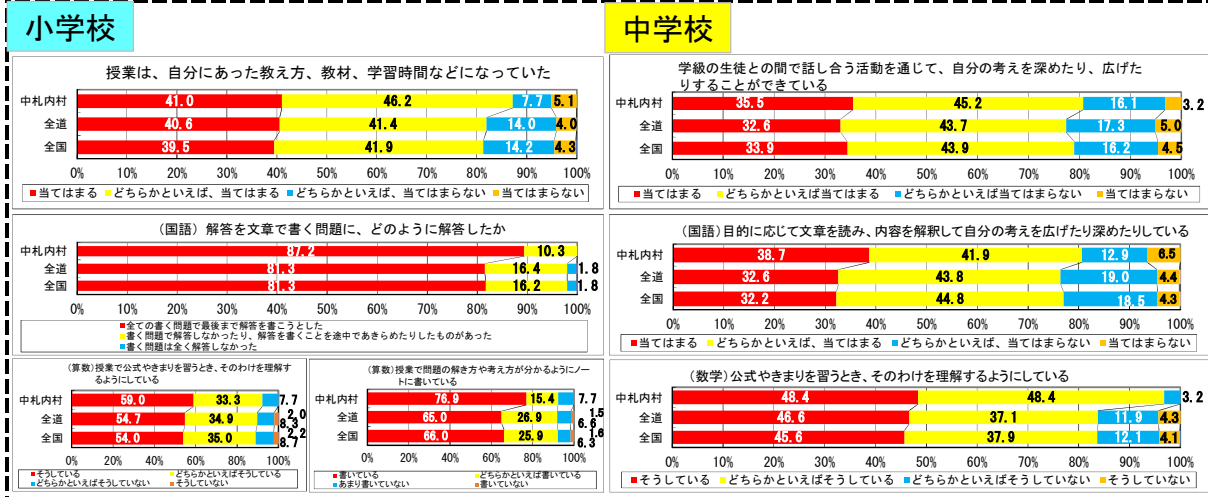
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	68	67
算数・数学	69	60



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、子どもにあった教え方、教材、学習時間などを工夫するとともに、国語の授業において、解答を文章で書く問題で最後まで解答を書くよう努力するよう指導を行ったことにより、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回り、「測定」及び「変化」と関係で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	授業において、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりする指導を行うとともに、国語の授業において、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする指導を行ったことにより、2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【中札内村の学力向上策】

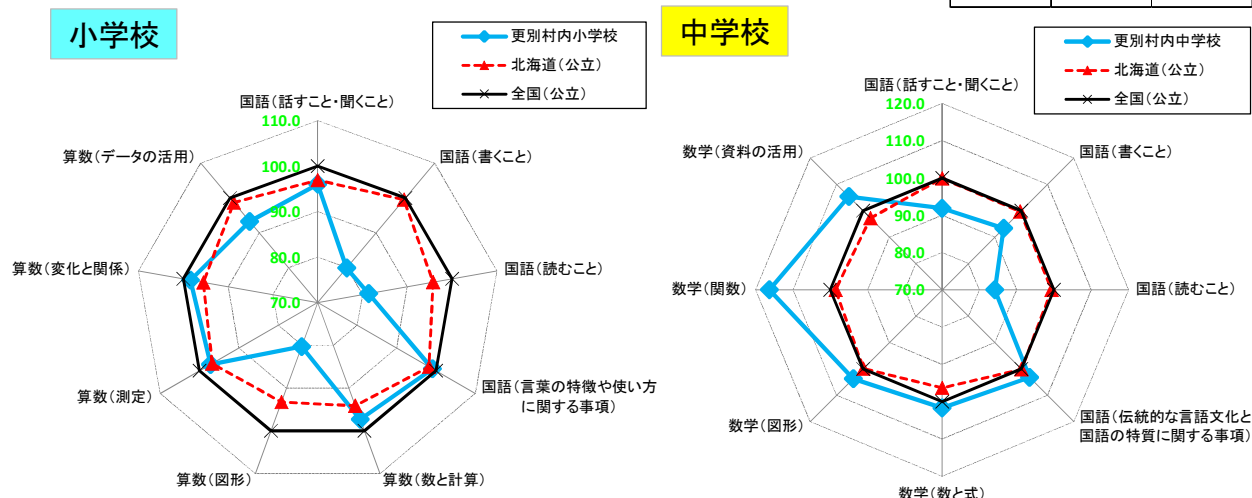
- ◎ 教職員の実践的指導力向上のため、長期休業中における2村（更別村）の合同研修会の実施
- ◎ 「学力・体力向上等サポート会議」による調査結果の分析及び授業改善に係る取組の推進
- ◎ 加配による習熟度別・TT指導による個に応じた指導の充実
- ◎ 小・中学校9年間を見通した学習規律及び基本的な学習過程による系統的な指導の推進
- ◎ プリントデータベース「スタディ・プラネット」を活用した基礎・基本の定着

■更別村内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：33人）（中学校数：1校、生徒数：30人）

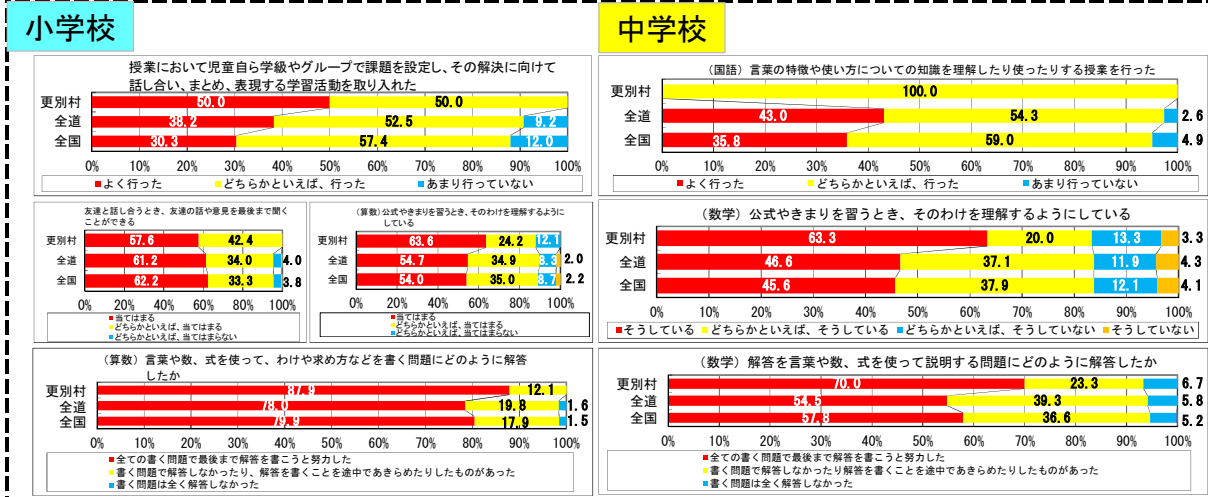
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	61
算数・数学	66	60



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を行うとともに、友達の話や意見を最後まで聞くことの指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題に全ての問題で最後まで解答を書こうと努力したと回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、「数と計算」及び「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、解答を言葉や数、式を使って説明する問題で最後まで解答を書こうと努力するよう指導したことにより、全ての領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【更別村の学力向上策】

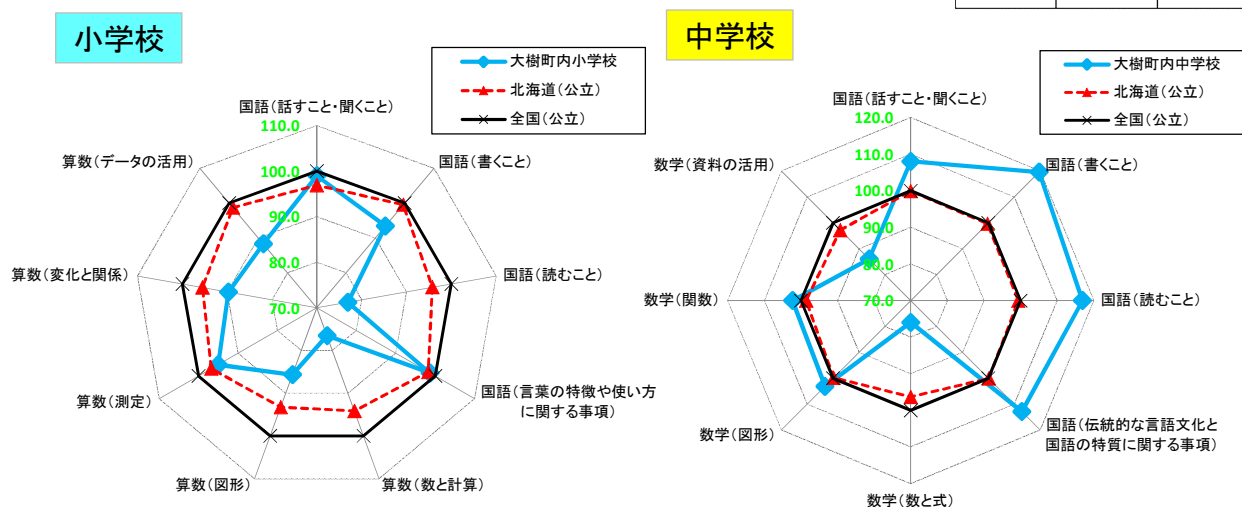
- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 村教委主催の長期休業中における小・中学生を対象とした学習会の実施
- ◎ 個に応じた指導を充実させるため、校内研修プログラムを活用した校内研修の実施
- ◎ 分析結果を基にした、学校における授業改善の推進
- ◎ 村教委主催の学力・体力向上等サポート会議の実施

■大樹町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:45人）（中学校数:1校、生徒数:41人）

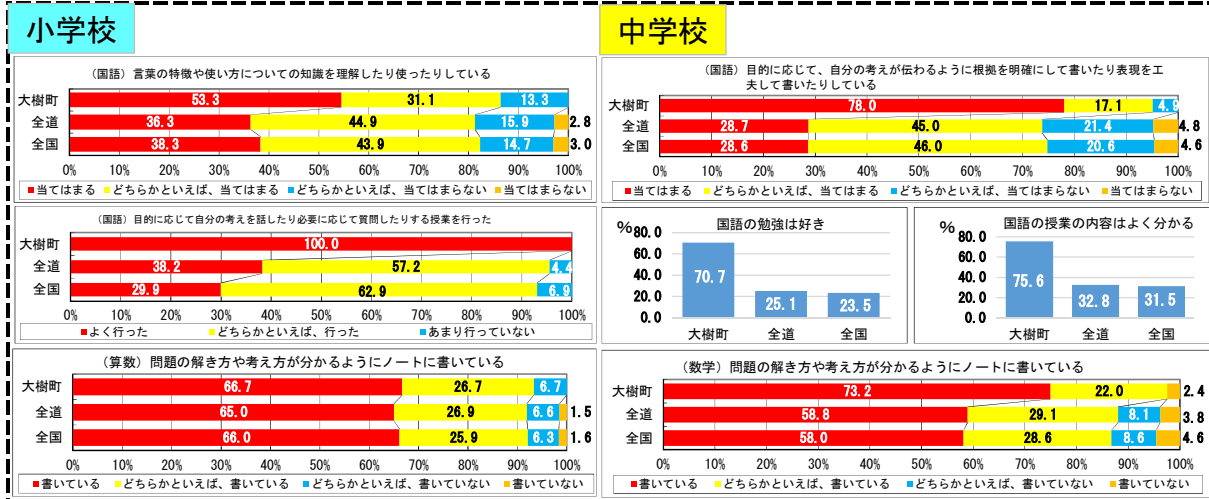
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	74
算数・数学	60	51



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行うとともに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「話すこと・聞くこと」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「測定」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回る設問があったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする指導を行ったことにより、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、国語の勉強は好き、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 数学の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「図形」及び「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【大樹町の学力向上策】

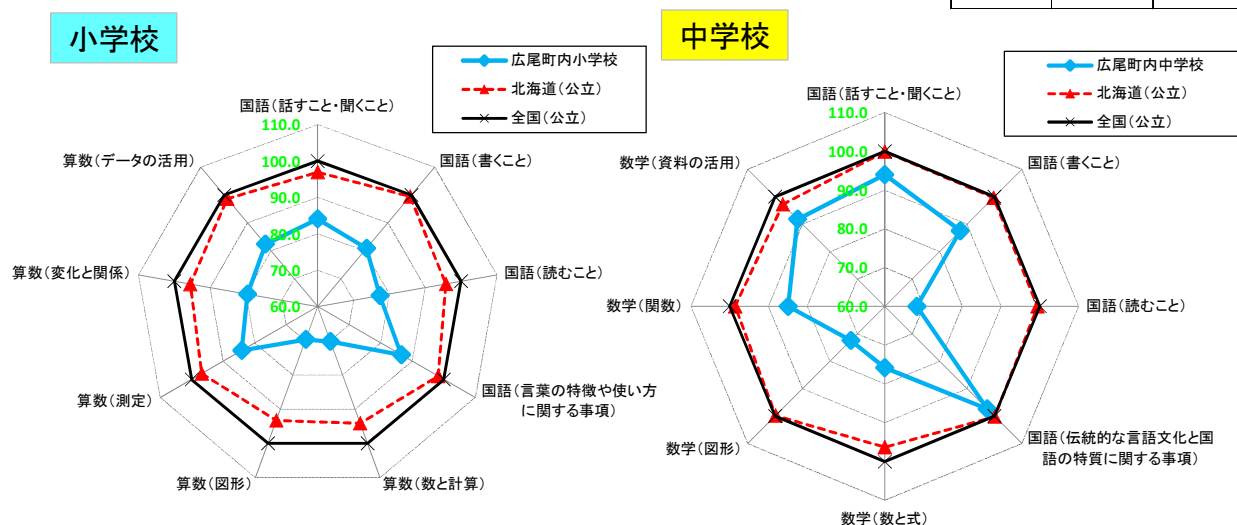
- ◎ 中学校で成果があった取組を小・中学校の全教職員で共有するとともに、小・中学校における検証改善サイクルを確立
- ◎ 小・中学校による授業参観の継続や9年間で育成を目指す資質・能力を明確にした合同授業改善研修会の開催
- ◎ 児童生徒自身が、1人1台端末を活用して家庭学習を行えるようにするための指導や授業との関連、家庭との連携の推進
- ◎ 社会教育と連携した放課後学習サポートの実施

■広尾町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:53人）（中学校数:1校、生徒数:40人）

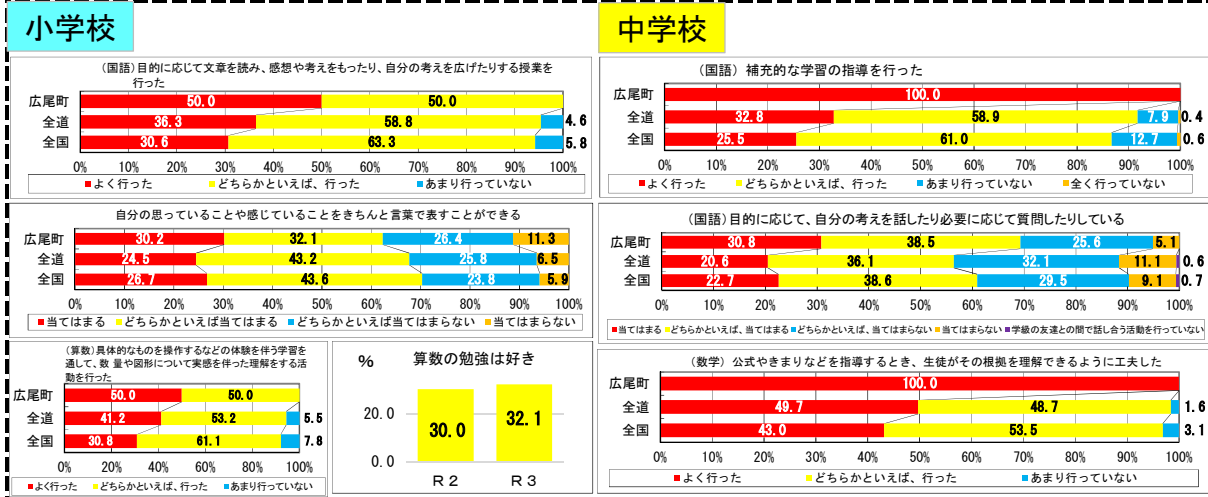
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	54	57
算数・数学	54	46



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想をもったり、自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を位置付けた授業を行ったことにより、算数の勉強は好きと回答した児童の割合が、前年度の割合を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする指導を行うとともに、補充的な学習の指導を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があった。 数学の授業において、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したことにより、「資料の活用」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問が複数あったと考えられる。

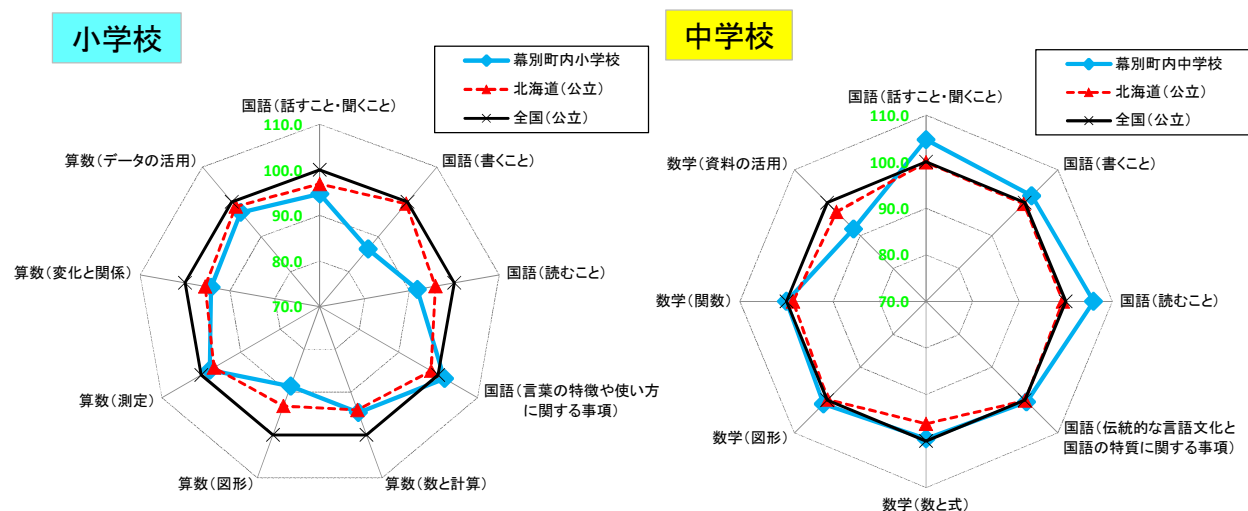
【広尾町の学力向上策】

- ◎ 学校力向上に関する総合実践事業を活用した授業改善の推進
- ◎ 小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 1人1台端末を活用した学習指導の充実
- ◎ 教員補助員や教科指導助手の配置によるつまづきが見られる児童生徒への指導の充実

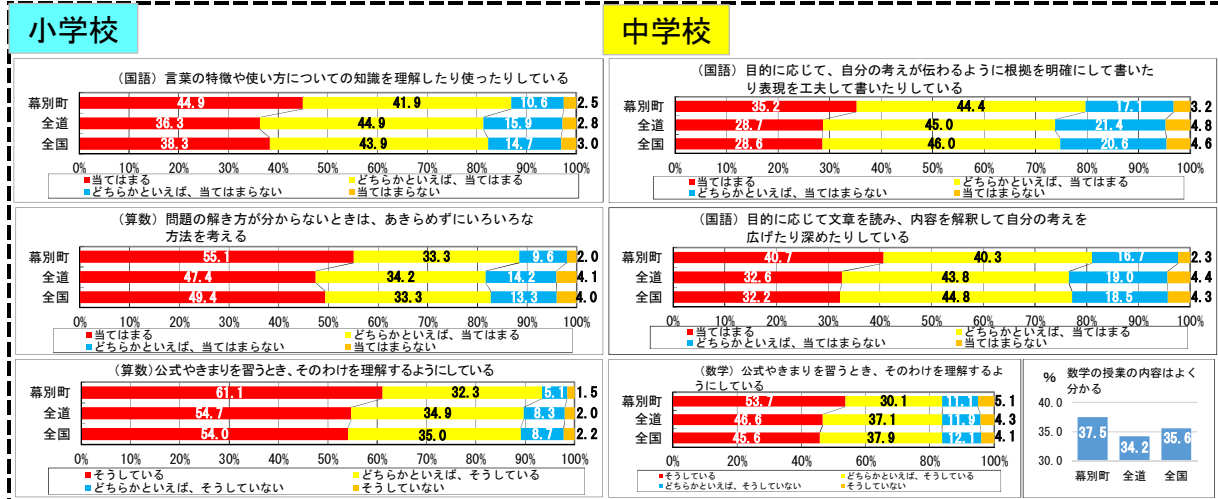
■幕別町内の状況及び学力向上策（小学校数：9校、児童数：198人）（中学校数：5校、生徒数：211人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまりを学習するとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えようとする指導を行ったことにより、「数と計算」及び「測定」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする指導を行うとともに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする指導を行ったことにより、全ての領域・事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを学習するとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、「図形」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

【幕別町の学力向上策】

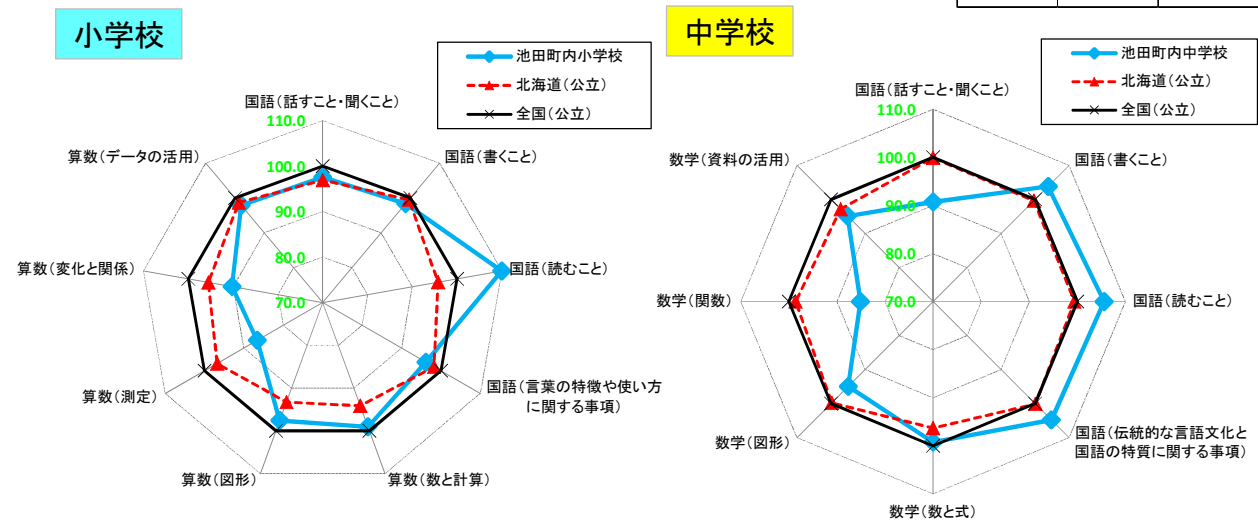
- ◎ 全国学力・学習状況調査等の結果を活用した授業改善及び教科等における言語活動の充実
- ◎ 小中一貫教育の推進
- ◎ 社会教育と学校が連携した長期休業中の学習活動の充実
- ◎ 指導工夫加配や退職教員等の外部人材の活用による少人数指導及び習熟度に応じたきめ細かな指導の充実

■池田町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:36人）（中学校数:1校、生徒数:41人）

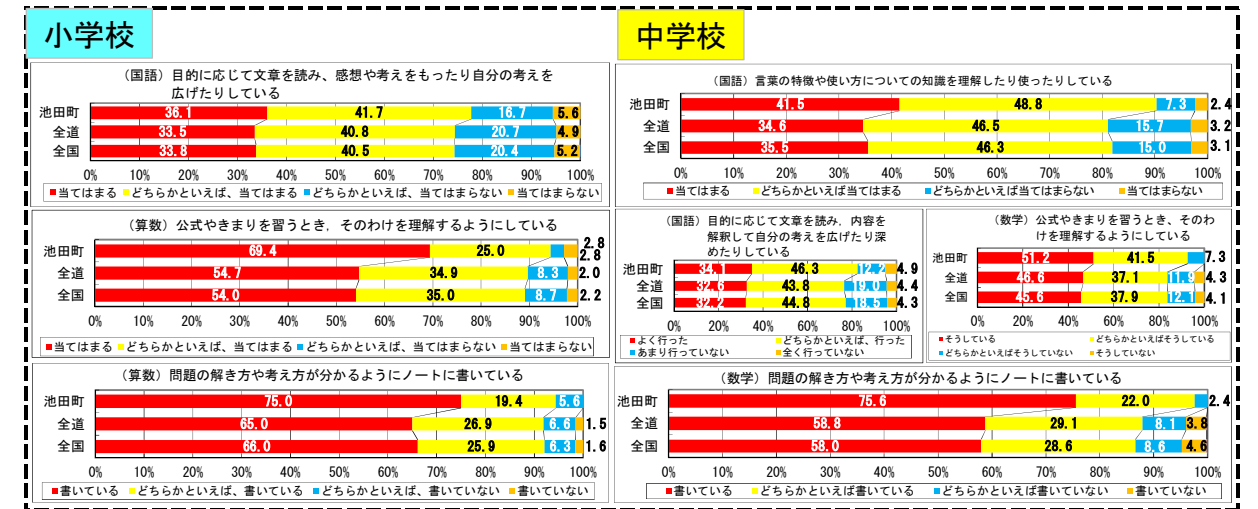
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	64	65
算数・数学	67	54



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりする指導を行ったことにより、「読むこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「数と計算」及び「図形」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行うとともに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分で考えを広げたり深めたりする指導を行ったことにより、2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く指導を行ったことにより、「数と式」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【池田町の学力向上策】

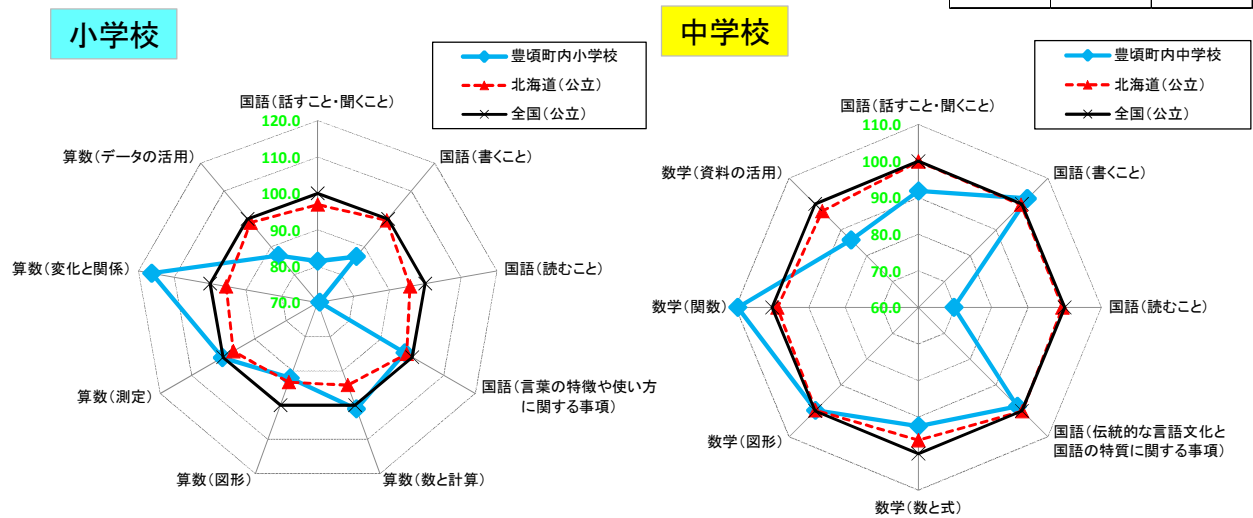
- ◎ 授業改善の取組、学力向上に向けた学校経営ビジョンの設定
- ◎ 小・中学校が連携した学習規律の指導や春季休業中の学習サポートの実施
- ◎ 少人数指導や習熟度別指導による子ども一人一人に応じたきめ細かな指導体制の構築
- ◎ 家庭学習習慣の確立に向けた家庭への啓発を強化

■豊頃町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:20人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

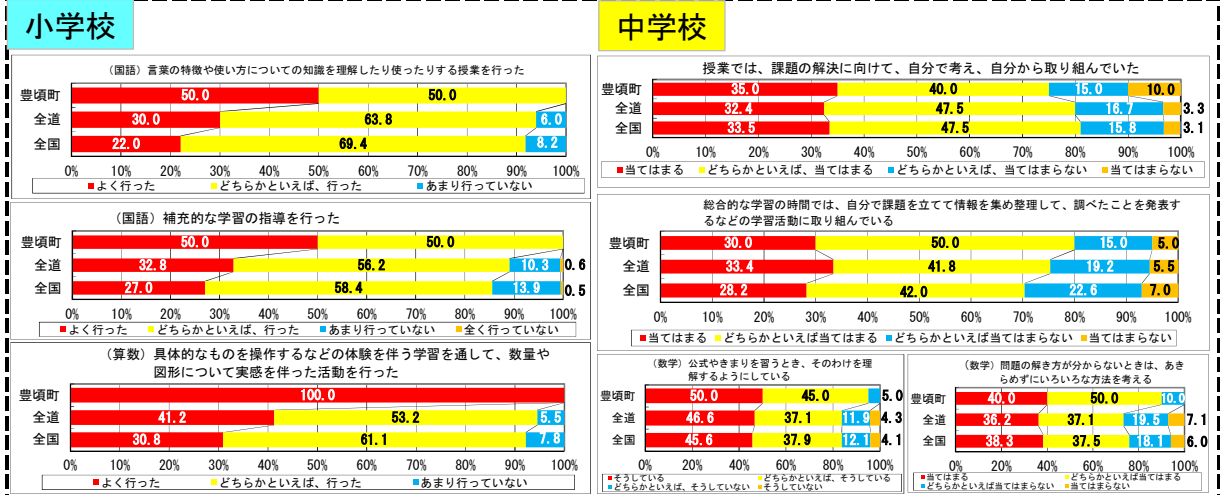
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	59
算数・数学	69	55



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行うとともに、補充的な学習の指導を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。 算数の授業において、具体的なものを操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする授業を行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	授業において、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む指導を行うとともに、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行うとともに、問題の解き方が分からないときはあらかじめいろいろな方法を考える指導を行ったことにより、「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【豊頃町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査の結果分析を基にした主体的な学習活動を重視した授業改善の取組
- ◎ ICT活用教育の推進
- ◎ 「家庭学習の手引」を活用した家庭学習の習慣化
- ◎ 小中連携機能を生かした合同研修会

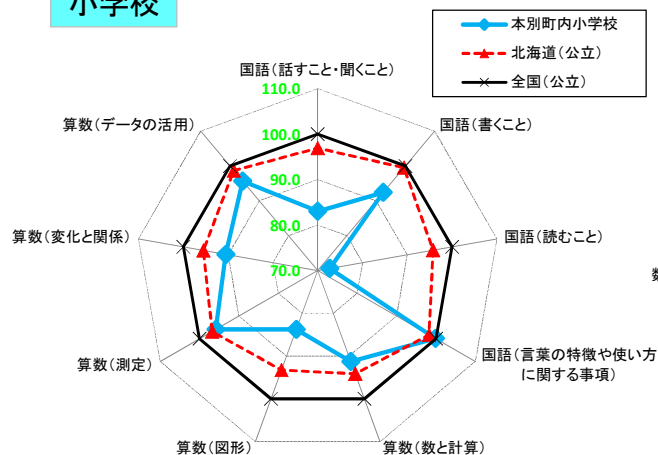
■本別町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:33人）（中学校数:2校、生徒数:27人）

【教科全体の状況】

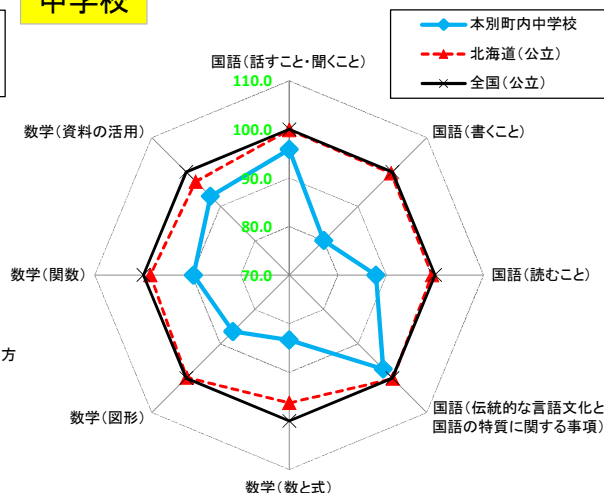
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	58	59
算数・数学	65	50

小学校

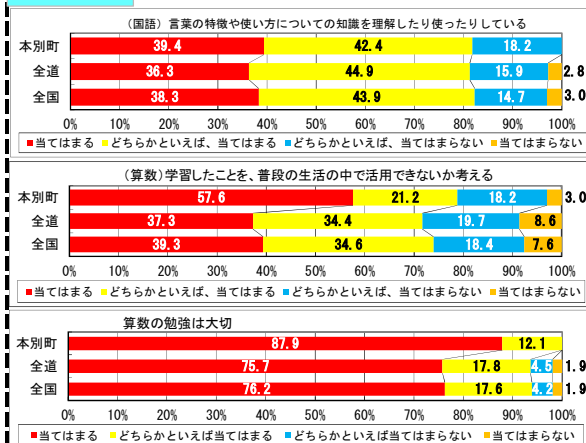


中学校

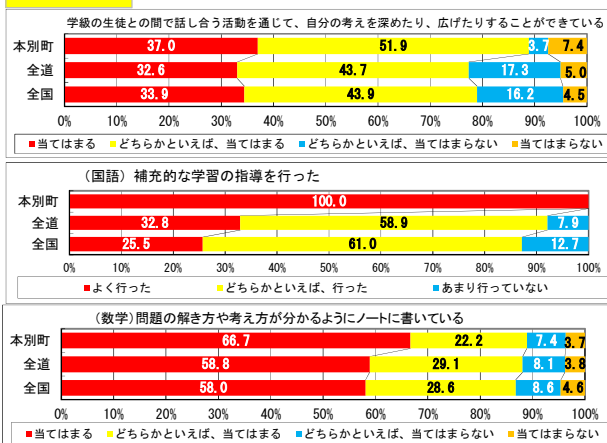


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする指導を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるよう指導したことにより、算数の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回るとともに、「データの活用」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問が多かったと考えられる。

中学校

国語の授業において、補充的な学習の指導を行うとともに、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする指導を行ったことにより、国語の「話すこと・聞くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。

数学の授業において、問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書く指導を行ったことにより、「資料の活用」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。

【本別町の学力向上策】

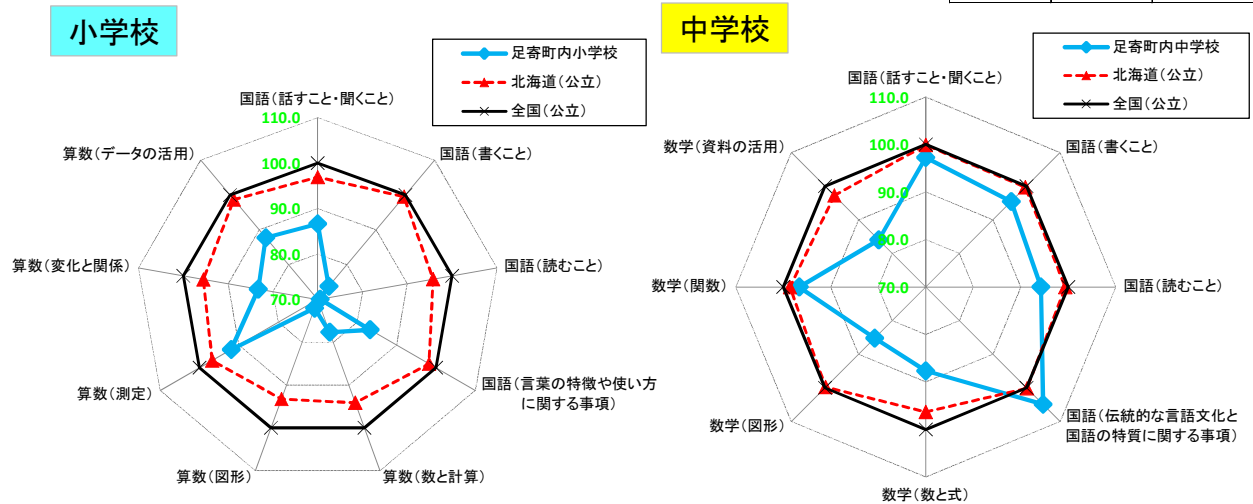
- ◎ 町内学力向上プロジェクトによる授業改善の推進
- ◎ 中学校教員による小学校への乗り入れ授業等の小中連携の推進
- ◎ 小学校教科担任制及び専科教員配置による専門性の高い授業の実施
- ◎ 家庭における学習習慣の確立

■足寄町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:48人）（中学校数:1校、生徒数:52人）

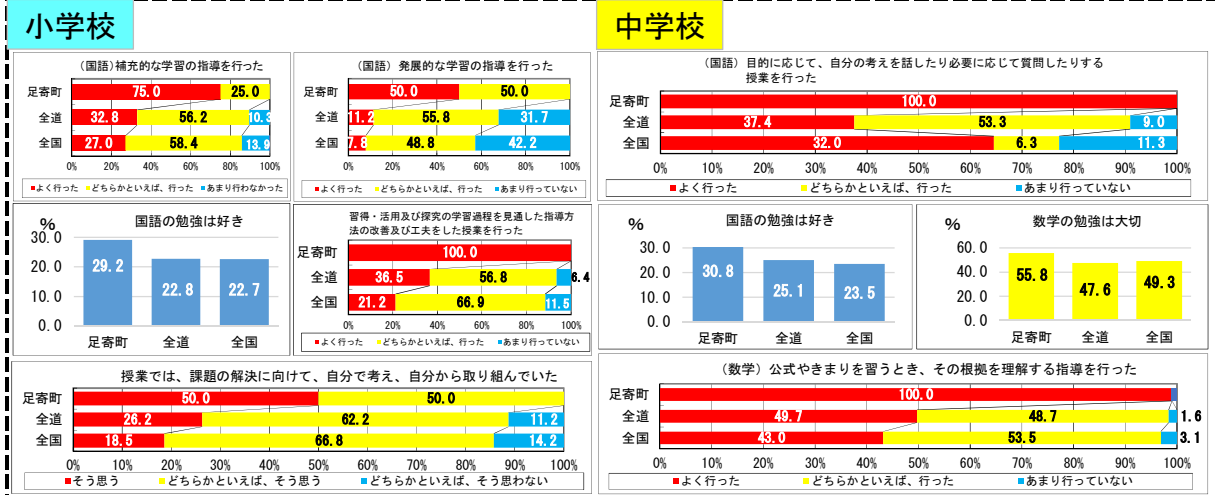
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	52	64
算数・数学	58	50



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、補足的な学習の指導や発展的な学習の指導を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 各教科等の授業において、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした授業を行ったことにより、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると回答した学校の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする指導を行ったことにより、国語の勉強は好きと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、その根拠を理解する指導を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。

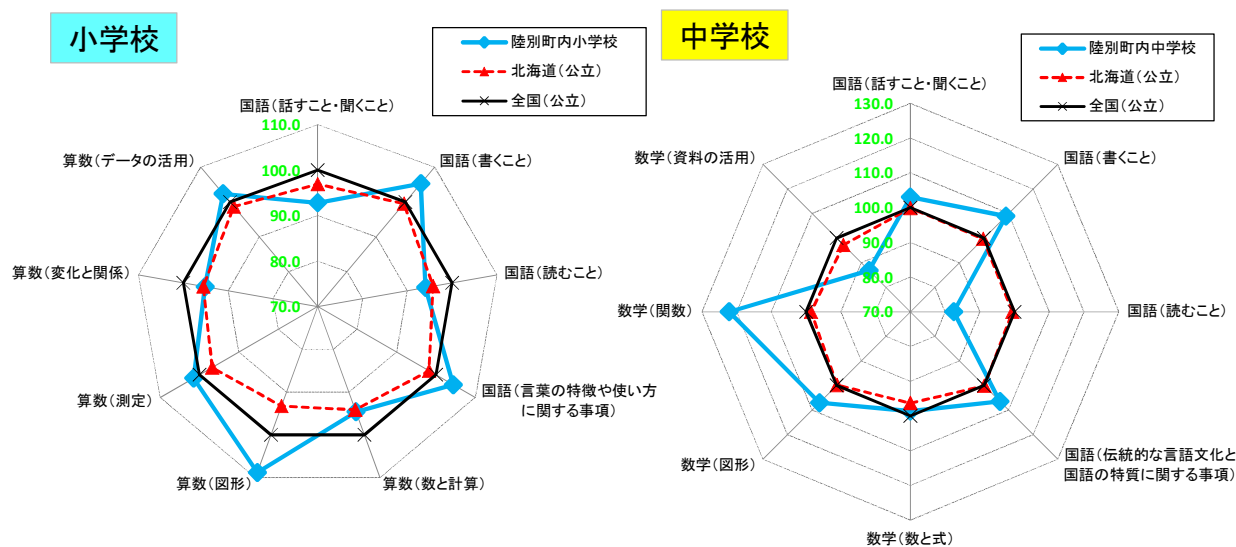
【足寄町の学力向上策】

- ◎ 学校課題における組織的な検証改善サイクルの確立、小中連携による9年間を見通した児童生徒の資質・能力の育成
- ◎ 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進、目的を明確にした言語活動の充実
- ◎ 学習アプリによる読解力向上を図る取組等、学校課題の改善に向けた1人1台端末の効果的な活用
- ◎ 町の支援員等を活用した習熟度別・少人数指導による個に応じた指導の充実

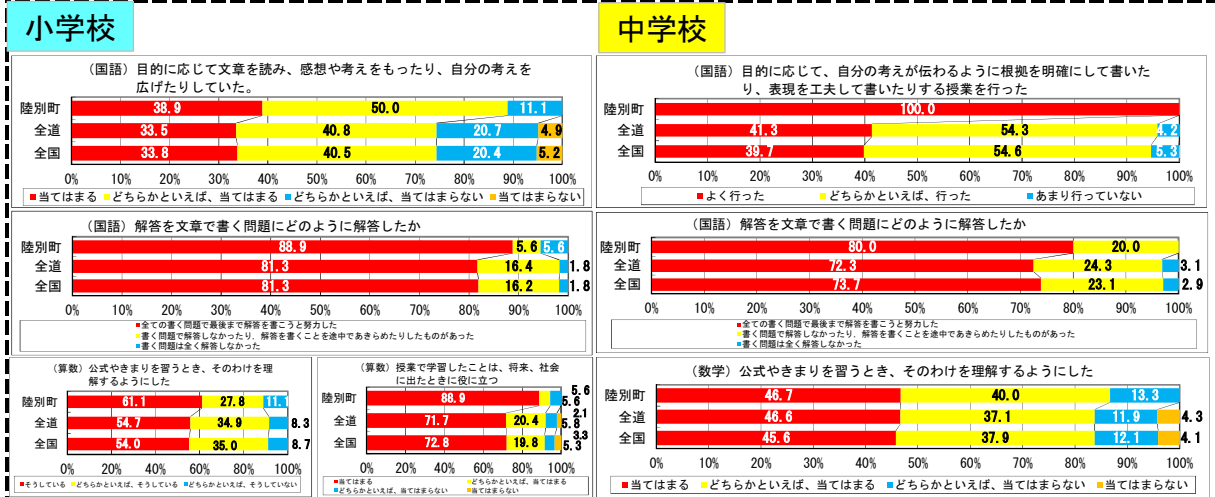
■陸別町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:15人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを上げたりする指導を行うとともに、解答を文章で書く問題で最後まで解答を書こうと努力するよう指導を行ったことにより、「書くこと」及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、「測定」、「図形」及び「データの活用」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回るとともに、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合が全国及び全道の割合を上回ったと考えられる。	国語の授業において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行うとともに、解答を文章で書く問題で最後まで解答を書こうと努力するよう指導したことにより、2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 数学の授業において、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、「図形」及び「関数」の領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

【陸別町の学力向上策】

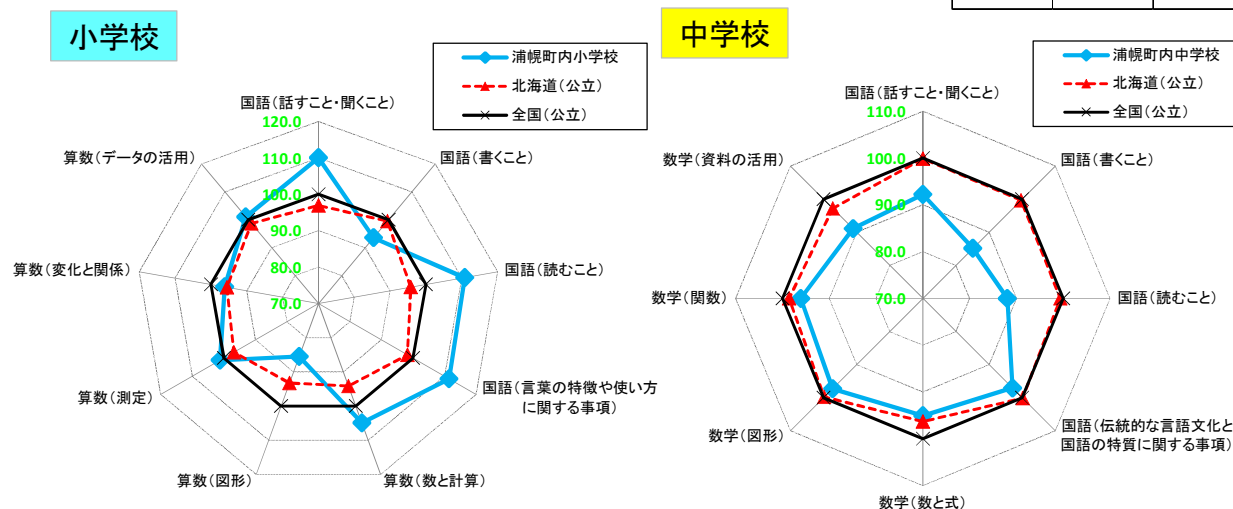
- ◎ 小中一貫教育を推進し、小・中学校の分析成果を共有した検証改善サイクルを確立
- ◎ 小・中学校合同による研修会や、日常的な相互授業参観、乗り入れ授業の実施
- ◎ 各教科における1人1台端末を活用した個別最適な学びの実現に向けた取組の充実
- ◎ 土曜授業の弾力的な活用による学習活動の充実

■浦幌町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:37人）（中学校数:2校、生徒数:24人）

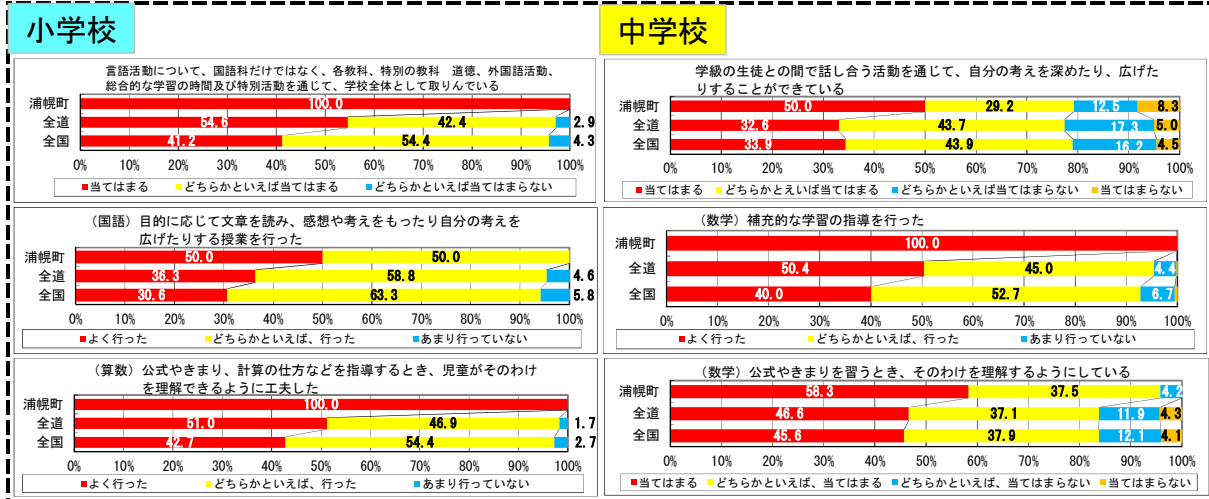
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	59
算数・数学	69	54



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
学校全体として言語活動に取り組むとともに、国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、2領域1事項で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。 算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫した授業を行ったことにより、3領域で全国及び全道の平均正答率を上回ったと考えられる。	授業において、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。 数学の授業において、補充的な学習の指導を行うとともに、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解する指導を行ったことにより、全ての領域で全国及び全道の正答率を上回る設問があったと考えられる。

【浦幌町の学力向上策】

- ◎ 全国学力・学習状況調査結果分析及び課題を明確にした数値目標の設定による検証改善サイクルの確立
- ◎ ICT機器の効果的な活用
- ◎ 小・中及び子ども園等合同の研修会や乗り入れ授業等の実施
- ◎ 小中一貫コミュニティ・スクールの取組の推進